

膵がんを対象とした造影 EUS による造影効果と術前化学放射線療法における治療効果の関連性の検討

1. 研究の対象

2011 年 8 月以降に当院で造影超音波内視鏡検査を受けられた方のうち、膵がんと診断され術前化学放射線療法を受けられた方

2. 研究目的・方法

一般的に、膵腫瘍内の線維化の程度の違いは抗癌剤の効果に影響を与えるといわれています。一方、超音波造影剤を用いた膵がんの造影パターンが、膵腫瘍内の線維化を反映しているとの報告もあります。

膵疾患に対して、従来の超音波検査に加え造影を行うことで、標的病変の明瞭化、血行動態の把握、周辺組織への浸潤の有無等がさらに可視化されることが期待できます。本研究では、その造影画像と他の画像検索結果、病理学的検索結果とを比較することで、造影超音波内視鏡における膵がんの造影パターンの差は線維化の程度の差を反映し、術前化学放射線療法における治療効果とも関連性があるかどうかを検討します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、放射線・抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者

大阪国際がんセンター 臨床検査科 安江 智美

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上